

本日ここに、西尾市合併10周年記念式典を挙行いたしましたところ、大村知事を始めとするご来賓の皆様、深いご縁があります友好都市の皆様、そして多くの市民の皆様にご臨席いただき、盛大にお祝いできますことは、この上ない慶びであります。

10年前の平成23年4月1日、西尾市、一色町、吉良町、幡豆町の1市3町が合併し、新市としての西尾市が誕生いたしました。先人達が積み上げてきた、豊かな歴史と文化を持つそれぞれの市町が、1つの基礎自治体に体制を改めるという大きな決断は、各首長や議員の皆様、合併協議に関わった各界の皆様が心を砕き、「まちの将来はどのようにあるべきか」を真剣に協議し、ご尽力いただいた賜物であると、改めて敬意と感謝を申し上げます。

この10年を振り返りますと、その歩みは決して早いとは言えないかもしれませんが、それぞれのまちの良さを活かし、課題を乗り越えながら、着実に歩を進めてまいりました。

本日、大ホールホワイエに6メートルの大型年表を展示しておりますので、その足跡をご確認いただければ幸いに存じます。

そして、10年を一区切りとして、今、私たちの目の前には「次なる10年の挑戦」が待ち受けています。この10年の間に、社会情勢は大きく変化しました。少子高齢化・人口減少が加速度的に進む中で、産業振興、地域コミュニティの活性化、子育て支援など、また、平成から令

和へと新しい時代に移り変わる中で、未曾有の危機ともいえる新型コロナウイルス感染症との共存など、数々の課題に直面し、その対応が問われています。しかし、この10年間で築いた土台を基に、市民、事業者、行政が「チーム西尾市」として一つになり、ONE NISHIOでこれらの課題に取り組めば、必ず道は開けるものと確信しております。

さて、地方創生が叫ばれる昨今、私たち一人ひとりが地域の未来を自分の事として考え、生まれ育った地域や今暮らす地域への愛着や誇りを原動力とした、持続可能なまちづくりが求められています。本日の式典プログラムの表紙に、「夢の花が ひらくまち 西尾」という記載がございますが、「夢が実現できるまち」、「未来にワクワクできるまち」を目指すというものです。「多様性」と（共に創ると書く）「共創」をキーワードに、様々な強みを持つ多様な主体が協力・連携し、化学反応が起こる中で、市としての総合力を上げていくとともに、居場所があり、誰もが活躍できるまちづくりを進めてまいりますので、今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、西尾市のさらなる発展と、本日ご臨席いただきました皆様のご健勝・ご多幸を心から祈念申し上げ、式辞といたします。

令和3年4月11日

西尾市長 中村 健